

会議記録（１）

会議名称	令和４年度第１回北本市まち・ひと・しごと創生有識者会議 (書面開催)
開会及び閉会日時	意見募集期間：令和５年３月１３日（月）から令和５年３月 ２７日（月）まで
開催場所	書面開催のため設定なし
議長氏名	会長：内田千美
出席委員(者)氏名	<意見シートの提出があった委員> 内田千美、土井淳一、平本照雄、竹中健司、杉山仁志、 齋藤正、吉田茂之、加藤慎二、三浦貞則、樋口恵子、 新田純康、加藤芳雄
欠席委員(者)氏名	なし
説明者の職氏名	書面開催のため、関係資料の郵送による
事務局職員職氏名	行政経営課長：福島弘行 同課企画調整担当GL：高橋良輔 同課企画調整担当主査：長谷川知亮 同課企画調整担当主任：國友裕太
議題	○ 地方創生拠点整備交付金を活用した事業「(仮称)北本 農家テラス（北本市農業ふれあいセンター）整備プロ ジェクト」（地域再生計画「農産物を活用した販わい創出 計画」）について
配付資料	１ 意見シート ２ 事業関係資料（産業観光課提出資料） （１）北本市農業ふれあいセンター販わい創出整備事業実 施報告 （２）参考資料「事業概要」 （３）参考資料「KPI実績値一覧表」 （４）参考資料「(仮)きたもと農家テラス（北本市農業ふ れあいセンター）リニューアル計画」 （５）参考資料「地域再生計画『農産物を活用した販わい 創出計画』」

意見のあった者	意見内容・決定事項				
平本委員	<p>【1】令和4年度第1回北本市まち・ひと・しごと創生有識者会議の書面開催について</p> <p>新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等の観点から、令和4年度第1回北本市まち・ひと・しごと創生有識者会議については、書面開催とすることとした。</p> <p>書面による会議の具体的な段取りとしては、議題に係る事業関係資料（事業所管部署の産業観光課提出資料）を各委員に送付した上で、期限を定めて、事業全体に対する御意見や、KPIとして設定されている売上高・利用者数・観光入込客数の増加に向けた今後の取組についての提案等の意見を募ることとした。</p> <p>【2】地方創生拠点整備交付金を活用した事業「(仮称)北本農家テラス（北本市農業ふれあいセンター）整備プロジェクト」(地域再生計画「農産物を活用した賑わい創出計画」)に対する意見</p> <p>以下のとおり、全12人の委員から「意見シート」の提出があった。</p> <table data-bbox="587 1283 1377 1368"> <tr> <td>意見あり</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>意見なし</td> <td>8人</td> </tr> </table> <p>各委員のコメントは、以下のとおり。</p> <p>※ 「意見あり」「意見なし」の選択にかかわらず、「意見シート」に記述があった文章（一部要約。資料提出時の口頭意見の加筆一部あり）。</p> <p>○ 当施設は国道17号線沿いという交通量が極めて多い立地にあります。通りがかりの方が興味を持って、気軽に立ち寄っていただけるようなネーミングや愛称をつけたらどうでしょうか。「北本市農業ふれあいセンター」は少し堅苦しく、気軽に立ち寄れない感じがします。例えば「〇〇の駅」といったネーミングはいかがでしょうか。ネーミングにも様々な制限があるかと存じますが、検討の余地がありましたら幸いです。</p>	意見あり	4人	意見なし	8人
意見あり	4人				
意見なし	8人				

意見のあった者	意見内容・決定事項
<p>竹中委員</p> <p>加藤（慎）委員</p>	<p>→＜当該意見についての産業観光課による補足説明＞ 令和２年度のリニューアルの際に公募し決定した「きたもと『四季の恵み』マルシェ」という愛称がありますので、その愛称を通じてさらに広く親しまれる施設となるよう、今後の事業展開や広報を工夫していければと考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ KPI 実績値について、北本市農業ふれあいセンターの利用者数は目標を達成しているが、売上高は目標値を下回っている。その要因について綿密に分析・検証した上で、売上高の増加に向けた対策を検討されたい。 ○ 当該施設の集客や売上げの増加を期待するにはコンセプトを明確にし、広く誰にでも行き届くよう情報発信を強化する必要があると思います。 ○ 近年、高速道路のサービスエリアが大注目され、今までのような休憩場ではなく、それを目的に行く人さえいる状況を生みだしています。そこには遊園地があったり（刈谷）、クルーズができた（浜名湖）、昔ながらの街並みがあったり（羽生）とコンセプトを明確にしており、広く情報発信しているからこそ人が集まるのだと思います。 ○ 例えば、本件は「農」が主体となるので農業や野菜／果物にまつわる「体験型」をコンセプトにしてはどうでしょうか。事業概要の〔ソフト事業〕において、①農家との交流においては買う、食べるだけではなくキッチンスペースを設け、その場で農家さんからレシピを教してもらい実際に料理する。例えば北本トマトカレーをその場で作ってみるなど、親子の交流の場にもなるのではないのでしょうか。②農業を知る、学ぶにおいては種蒔き～収穫まで体験し、収穫した農作物をその場で食べるのは勿論、販売等を通じて経済の流れを学ぶ。③多様な人が集う観光拠点では定期的なマルシェの実施や、グリコさんの協力を得て収穫した農産物（イチゴやトマト等）を使用したポッキーやアイスなどを作り食すなど。 ○ 既に実施しているものもあると思いますが、シンプルなコンセプトをもとに実施していき、SNS での発信や市

